

日程

4月～
7月末

選抜実施要項発表

来春の正式な募集人員、入試方式ごとの入試科目・配点が示されます。その資料は大学が高校の進路指導室に送付している場合も多いですが、直接取り寄せることもできます。

11月～

募集要項配布開始

募集要項には、試験会場や試験の時間割、受験料など、入試に関する詳細な事柄が記載されています。また、出願の際に必要な「願書」が一緒になっています。大学が高校の進路指導室に送付している場合も多いですが、直接取り寄せることもできます。（一部9月頃に配布を開始する大学もある）

1月上旬～

出願

2月の一般入試についてはこの頃出願となります。後期（3月）入試については、2月・3月に出席する大学もあります。一般入試の受験料は1校（1大学1学部）35,000円程度です。

1月下旬～

入学試験

一般入試はおおむね2月に行われます（一部に後期入試として3月に設けているところもあります）。近年、複線入試といって、同じ大学・学部で方法（科目・配点など）を違えて複数の受験機会を設けている場合も多くあります

入試科目

■基本的な方式

試験科目	英語	国語	数学	理科	地歴
文系	○	○	△		△
理系	○		○	○ (1科目)	
備考	文系	・国語では漢文を出題しない大学が多数。 ・地歴の代わりに数学（I・A・II・B）で受験できる大学もあります。 ・地歴でも世界史Bまたは日本史Bしか認めていない大学もあります。			
	理系	・理科は学部・学科により指定がある場合があります。 ・また理科2科目の大学（慶應大医・理工、早稲田大基幹理工・創造理工・先進理工など）もあります。			

ADVICE

Q：大学により入試問題の傾向が違っていると聞きましたが、何をすればいいのですか？

A：第1志望大学の過去問を数年分しておくことはよく勧められます（冬でよい）。問題の傾向、時間配分などを把握し、対応する勉強をしておく方が得策です。また、大学によっては、学部を通して問題傾向が似ているため、複数回（学部）受験した方が合格率が高いという分析を公表しています。

私立大学入試のパターン

■一般入試

募集時期別…前期試験（2月）
後期試験（3月）

試験地別…本学試験・地方試験

その他…センター試験利用入試
センター試験併用入試

ADVICE

Q：全学部日程と学部個別日程の違いがよくわからないのですが？

A：文字通り全学部日程とは全学部が同じ日に実施する入学試験であり、個別日程とは学部毎に試験日が異なる入学試験です。個別日程は大学によって日程を複数設けているところもあり、同一学部・同一学科を複数回受験することが可能です。全学部日程と個別日程とでは、配点が異なったり、大学によっては入試形式そのものが異なる場合があります。

異なる場合の例（2018年度）：

大学名	学部個別日程	全学部日程
関西学院大学	2月3日：文・教育・理工・総合政策・経済 2月4日：経済・国際・総合政策・人間福祉 2月6日：神・商・国際・教育・総合政策 2月7日：社会・法 *英語・国語はマーク式+記述式 日本史・世界史・地理はマーク式のみ 数学・物理・化学・生物は記述式のみ	2月1日：文・法・商・人間福祉・経済 理工・教育・総合政策・国際 2月2日：神・社会・経済・国際・教育・総合政策 *英語・国語・日本史・世界史・地理はマーク式のみ 数学・物理・化学・生物は記述式のみ

ADVICE

Q：地方試験について教えてください。

A：地方試験とは文字通り、大学の所在地以外で行う試験のことで、以下のような2つのメリットがあります。第一のメリットは、地元あるいは地元近くで受験出来ることです。受験の際の移動距離が短くなるので、交通費が低額で済んだり、宿泊費が必要なくなったりすることもあります。

過去例：①西宮市在住の受験生が大阪で中央大学を受験する。
②姫路市在住の受験生が姫路で関西大学を受験する。

第二のメリットは、地方試験を活用することで受験機会を増やすことができることです。併願校が互いに離れていて移動に時間がかかり受験が無理な場合や、同一大学でも違う大学でも試験日が重なっているときなど、本学試験とは別日程で行われる地方試験で救われるケースがあります。

過去例：2月6日に「上智大学」の文学部も受験するため、前日の5日に東京で「関西学院大学」の文学部の関学独自方式を受験する。

ADVICE

Q：前期試験と後期試験とではどちらの難易度が高いのですか？

A：前期試験と後期試験とでは試験形式が異なる場合がありますし、状況もまったく異なるので、どちらの試験の難易度が高いか一概に言うことはできません。
各大学発表の前期と後期の募集人数と倍率にも注目してみてください。